

令和6年度第1回旭川市科学館協議会議事録

日時

令和6年7月3日（水曜日）午後3時から午後4時15分まで

場所

旭川市科学館1階 学習・研修室

出席者

（委員）

加藤委員，小嶋委員，谷越委員，津嶋委員，金谷委員，石田委員，奥村委員，高橋委員，ローゼエルマイヤー委員，渡辺委員

（事務局）

岩崎科学館長，中田主幹，南雲副館長，鷺見専門官，福谷主査，川辺主査，大瀧主査，近藤主査，藤原主査

会議の公開・非公開

公開

傍聴者の数

なし

会議資料

資料1 旭川市科学館報 ― 令和5年度版 ―

資料2 令和6年度 旭川市科学館企画展 開催概要

資料3 旭川市科学館サイエンスショーにおける観覧客の負傷事故について

資料4 火気を扱うサタデーサイエンスショーの再開及び事業の安全対策について

資料5 サイエンスショーの対応状況

会議要旨

1 開会

2 議事

（1）会長及び副会長の選任について

議長（仮）	議事(1)について，委員に諮る。
委員	会長は津嶋委員，副会長は谷越委員に決まる。

(2) 令和5年度入館者等並びに事業実績概要について

会長	議事(2)について、事務局から説明願う。
事務局	資料1に基づき説明
会長	議事(2)について、質問、意見等の発言を願う。
委員	昨年度の施設利用者数について、リピート率や年齢層はどのようなになっているのか。
事務局	この場で詳細に答えられないが、ひとつの方法としてパスポート利用者数のデータからリピート率を出すことができる。年齢層についての詳細なデータはないが、日々の業務を通じた印象から、就学前児童や小学校低学年とその親といった家族連れが多いという印象を受けている。 常設展示に限れば、資料1の7ページに「大人、高校生、小人、その他」の区分のデータを掲載している。施設利用者数全体についても、概ね常設展示の利用者数と同様な傾向であろうと認識している。
委員	「小人」の内訳で小学生、中学生等の区分のデータはあるか。
事務局	個別の事業で、小中学生を区分したデータを収集しているものはあるが、それらのデータを収集して集計するまでの作業はしていない。
委員	科学館が対象としている層と実際の利用者の層がマッチングしているのかが気になったので先のような質問をした。未就学児や小学校低学年にスポットをあてて、今の結果になっているのか、そうではないのかによって、科学館がターゲットとしている利用者に利用されているのかどうかが変わってくる。
事務局	事業参加者の利用実績としては、未就学児や小学校低学年が多い。科学館としては子どもから大人までを対象としているが、ある程度対象を絞った事業の組み方をすることも必要と考えている。今後も利用者データの傾向を反映した事業の実施を考えていきたい。
委員	資料から科学館がいろいろな取組をしているのはわかったが、今後の旭川での科学教育について、科学館としての課題をどのようにとらえているか。
事務局	次のようなことを課題として認識している。 ・常設展示等で時代にあった展示や事業への対応をどうしていくのか ・新しい技術を伝えることも科学館の使命と考えているが、新技術をわかりやすく伝えることは難しい部分もあるので、わかりやすく伝えるような取組も必要であること ・スタッフとして新技術を伝える側の知識や技術の習得 ・会員減少や高齢化の課題があるサイエンスボランティア旭川の人材確保
委員	資料を見ると、スタッフの人数に比べ、かなりの数のイベント等を実施しているように感じる。スタッフはかなりのハードスケジュールなのではないかと心配になるが、大丈夫なのか。過密なスケジュールは、このあと報告予定の実験の事故の原因の一つにもなっているのではないか。
事務局	事業計画、実施にについては、現在、利用者数が少なかった大人向けの事業を削

	減するなどして、以前より事業数を削減している。一方で、定員を超える応募がある事業は回数を増やすなどし、スクラップアンドビルドを行っている。また、旧青少年科学館のときから続けている歴史のある事業などは、簡単にやめられない事業もある。 木工の事業があるのは旭川市科学館の特徴であり、そういった事業などは、単純に参加者数の減少だけで事業の継続を判断できない部分もある。一方でスタッフの数が限られている現実があるので、そのことも考慮し、今後の事業の計画を考えて行きたい。
会長	他に意見等がなければ次に進む。

(3) 令和6年度の企画展の概要について

会長	議事(3)について、事務局から説明願う。
事務局	資料2に基づき説明
会長	議事(3)について、質問、意見等の発言を願う。
委員	－（意見等なし）－
会長	意見等がなければ次に進む。

(4) その他

会長	議事(4)について、事務局から説明願う。
事務局	ありません。
会長	他に意見等がなければ次に進む。

3 報告事項

(1) 令和6年4月20日に科学館で発生した事故について

会長	報告事項(1)について、事務局から説明願う。
事務局	資料3、資料4及び資料5に基づき説明
会長	委員に、ほか質問等の発言を願う。
委員	事故前に予備実験は行っていなかったのか。
事務局	予備実験は行っていたが、その予備実験の内容が不十分だった。事故の原因となったフラッシュコットの使用量について明確な定めがなかったことから、結果的に必要以上の量を使用してしまったことによりアクリル製の筒が破裂した。
委員	資料4－1－(2)－エの「リハーサル」は、年度初めに1回行うのか、それともサイエンスショー1回ごとに行うのか。
事務局	実演する職員の習熟度により変わる。対象の実験を何度もやっているような職員であれば何度もやる必要はないが、十分に習熟するまで行う必要である。
委員	何度も実演して慣れることにより、油断することもあるのではないかな。
事務局	その部分に対しては、リハーサルの回数でカバーするのではなく、実験材料の使用量をマニュアルで定め、定量化することで対処する。

委員	資料４－２で「科学館で実施する全ての事業について、危険性の再点検を行い」とあるが、再点検の結果、新たに危険性に気づいたものはあるか。
事務局	点検は現在も継続中で、これから点検するものもある。事業によっては屋外で実施するものもあり、屋内とは別のリスクを抱えているものもある。 サイエンスショーについては、事故があったため、資料のとおり詳細に整理しているが、その他の事業についても、事業実施前にリスクを回避するような対応方法を検討した上で実施している。
委員	事前準備の段階で、担当者個人の責任とならないよう、組織的に複数でチェックする体制はできていたのか。 資料５の「再開時期」が未定になっているものもある。事故防止を最優先で考えることはもちろん大切だが、そればかり考えて魅力的な活動が阻害されてしまうのも好ましくない。 チェック体制をとりながら、多くの観覧者に楽しんでもらえるような取組を引き続き行っていたきたい。
事務局	チェック体制が不十分だった部分があったため、チェック体制を整えつつ、未定のものについても再開していきたいと考えている。しかし、今現在どのような対策をとれば安全を確保できるのか対策を検討中である。未定となっているからといって、今後も実施しないという意味ではない。もう少し対策について検討時間が必要であるということで受け止めていただきたい。
会長	他に意見等がなければ次に進む。

3 閉会